

ライターをつけろ

2005(平成17)年6月26日鑑賞(ホクテンザ1)



監督=チャン・ハンジュン/出演=キム・スンウ/チャ・スンウォン/パク・ヨンギョ/カン・ソンジン/イ・ムンシク/ユ・ヘジン/キム・インムン (エスピーオー配給/2002年韓国映画/103分)

……ソウルを出発した列車が乗っ取られたままノンストップで釜山駅に衝突したら……？ そんな危険をはらみながら展開され、手に汗を握るアクションは、みんな一生懸命ながら笑いを誘うユーモラスなもの。この社会風刺ともいえる韓国版『新幹線大爆破』(75年)は、列車乗っ取りの動機と小道具としてのライターがミソ……？ こりゃ面白いヨ……。

これは韓国版の『新幹線大爆破』

ソウルを出発して釜山に向かう列車が乗っ取られ、ノンストップのまま釜山駅に突っ込んだら……？ そんな恐ろしい事態が乗っ取り犯のヤン・チョルゴン(チャ・スンウォン)の手によってひょっとしたら現実に……？

チョルゴンはクールでカッコいい(?)ヤクザだが、国会議員のパク(パク・ヨンギョ)に対して1年前の選挙工作の謝礼を支払えと脅迫するため、この列車の中に。まんまとパクを拘束し、金を出せと迫ったが、パクは容易にその脅しに乗らず、状況は二転三転……？

列車爆破をネタに脅迫する日本映画の名作は、古くは高倉健が主演した『新幹線大爆破』(75年)、新しくは『交渉人 真下正義』(05年)。そして韓国映画の最新作は『TUBE』(03年)。この『ライターをつけろ』はいわば韓国版の『新幹線大爆破』だが、大きく違うのは深刻なテーマであるにもかかわらず、主人公が2人ともどこかユーモラスで喜劇風仕立てとなっているところ……？

■ もう1人の主人公は？

もう1人の主人公は子供の頃から「トロい奴」として有名だった、情けない男のホ・ボング（キム・スンウ）。こちらは、有り金をはたいて買ったライターをソウル駅のトイレに置き忘れたところ、これがヤクザのチョルゴンの手に……。そこでボングは、チョルゴンからこのライターを取り戻すべく執拗に、列車の中にドンと居座っているチョルゴンに対して立ち向かって行ったが……。

■ 果たして列車は止まるのか……？

ヤクザのチョルゴンは、パクが金を払うと約束しないためキレてしまい、遂にこの列車をノンストップのまま釜山駅に突っ込ませると宣言し、それを実行しようとした。もっとも、列車が突っこめば自分も死んでしまうことになるのだから、その点についてチョルゴンがどのように気持の整理をつけているのかという点が判然としないのがちょっと気になるが……？

自由を奪われた列車の運転手は必死にチョルゴンを説得するが、話は全然通じない。そんな中、1度は列車から振り落とされたかに見えたボングは、再び列車の屋根の上を1番前まで進み、渾身の力を振り絞ってチョルゴンに対してライター奪還を再度挑戦。果たして今度こそはチョルゴンをやっつけて列車を止めてライターを手にすることができるのだろうか？

飲食会終了後の酔った状態で観たため、ちょっと雑な評論になってしまったが、列車が釜山駅に近づくにつれて増していく緊張感はかなり心地よいもの。しかし最後の結末がピッタリ予想どおりだったのは、ちと残念……？

2005(平成17)年6月28日記